

リズムジャンプを取り入れた保育に対する保護者の意識調査について

Survey on Parents' Opinion Concerning Rhythm-jump in Kindergarten

植 山 佐智子

要 旨

近年、幼児の運動不足が指摘されている。平成24年3月、文部科学省により「幼児期運動指針」が取りまとめられた。この子どもの体力の現状を踏まえ、保育に「リズムジャンプ」を取り入れた長期保育計画、短期保育計画を立案し、実践している。そこで繰り広げられる保育や子どもたちの様子を広報誌（園だよりやクラスだより）で保護者や地域に知らせ、体力測定結果を保護者に知らせている。

本稿では、この実践を通して、保護者アンケートを実施し、保護者の意識調査をもとに、より効果的な「リズムジャンプの保育をどう展開するか」について考察する。

キーワード：リズムジャンプ 幼児の意識 体力向上、保育教材研究、保護者教育

1. はじめに

幼児の健康な心と体は、体を動かす遊びの楽しさを十分に味わう中で育まれる。そして遊びを通して多様な体と心の動きを体験することで、心身の調和的な発達が促されていく。しかし近年、生活スタイルが変化し、また交通事故や不審者などの事案に対する不安感もあり、家庭から目的地までの移動には自動車に頼ることが多い。このような生活環境から、歩くことを始めとした体を動かす機会が奪われている状況がある。都市部の幼児だけでなく、自然あふれた地域の幼児にとっても、身体活動の機会減少は大きな課題である。突発的な物事に対する反応ができにくく、けがをしたり体を使って遊ぶことに抵抗を感じたりしている幼児の姿も多く見受けられる。この現状を踏まえ、心と体を弾ませ、夢中になってさまざまな遊びをすることにより多様な動きを経験し、それが体力向上につながるのではないかと考える

文部科学省では、平成19年度から21年度に「体力向上の基礎を培うための幼児期における実践活動の在り方に関する調査研究」において、「幼児期運動指針」¹⁾、「幼児期運動指針ガイドブック」²⁾及び「幼児期運動指針普及用パンフレット」³⁾が取りまとめられた。この中で①体力・運動能力の向上②健康的な体の育成③意欲的な心の育成④社会適応力の発達⑤認知的能力

の発達を目指して、「毎日60分以上楽しく体を動かす」ことが推奨されている。リズムジャンプは「ライン」と呼ばれる障害物をリズムに合わせて跳び越える運動であり、現在プロ野球選手から幼児まで幅広く実施されている運動である。現在、岡山県、兵庫県を中心に数多くの幼稚園・保育園で取り入れられており、運動能力の向上も報告されている。

そこで、本研究ではリズムジャンプを保育に取り入れている幼稚園を対象に、その実施状況、運動能力の変化、保護者の感想を調査し、リズムジャンプを保育に取り入れる際の、基礎資料を得ることを目的とする。

2. リズムジャンプとは

リズムジャンプとはラインと呼ばれる障害物をリズムに合わせて跳び越える運動で、一般社団法人スポーツリズムトレーニングが開発・普及を進めているものである。リズム感を養うことで運動能力を向上させることが狙いであり、現在プロ野球を始めとするプロアスリート、中・高・大学運動部、さらに小学校・幼稚園・保育園など全国で200以上の団体が取り入れている。

津田⁴⁾は、3週間（計10回）体育準備運動として取り入れることで反復横とび、立ち幅跳びの記録が向上した、あるいは朝の運動として1年間実施した小学校では保健室の利用者数が約30%減少したと報告しており、体力の向上のみならず障害予防にも効果的であると指摘している。この結果を受けて、リズムジャンプは2015年日本臨床整形外科学会より子供の障害予防トレーニングに認定された。

リズムジャンプで必要なものは、ラインと呼ばれる幅5cm厚さ8mm長さ7mのスポンジ状の障害物と音楽を再生させるプレイヤーのみであり、ルールも①ラインを踏まない②リズムに合わせる③合図でスタートするとシンプルである。それに対し、技は豊富で子供達は飽きずに取り組むことができる。

3. 方法

(1) 対象

兵庫県宍粟市立城下幼稚園年長児（男児8名、女児7名）及びその保護者

(2) 調査期間

平成26年6月～平成27年2月

(3) 調査内容

①年間指導計画

担任教諭に年間の指導計画及び指導内容の聞き取り調査を行った。

②運動能力

6月と12月に25m走・立ち幅跳び・ボール投げの記録を測定した。

③保護者アンケート

平成28年2月に保護者に対してアンケート調査を行った。実施したアンケートを表Vに示した。

(4) 統計処理

6月と12月の運動能力の変化を対応ある検定を用いて比較した。危険率5%を持って有意とした。

4. 結果

①年間指導計画

年間指導計画を表Iに示した。

対象児の15名は、4歳児で保育体験しているので、4月は自由な遊びの時間に自分たちで選んでステップに挑戦したりダンスを楽しんだり姿が見えるようになってくる。そこでクラス活動では、できるステップを確認し新しいステップを見て理解し挑戦する。5月は新しいステップに挑戦できるようになったことで達成感を味わいリズム感や体幹が育ってくる。6月は、ステップをつなげたダンス前半に挑戦し、リズムに合わせることを楽しみ友達と合わせることを体験する。7月は、ダンス後半に挑戦し一曲踊りきることを体験する。8月は夏季休業中のため、9月に入り運動場でのダンス構成で、幼児自身が隊形移動とダンスの完成に向けて意識して取り組めるようになる。10月は、運動会のダンスをステージ用にアレンジしてダンスの難易度も上げて達成感を味わわせる。また、興味を持った運動遊び（一人縄跳び、大縄跳び、マット、跳び箱など）に挑戦する。11月は、多くの地域の住民にダンスを披露することで、緊張感や達成感を味わう。12月は、いろんな運動遊びに挑戦したり新しいステップに挑戦したりすることを楽しみ、発表会のダンスに向けてクラスの友達と協同的な遊びが開始する。1月は、クラスでダンスを完成するために協同的な遊びの体験をする。2月は、発表会でダンスを披露し自己肯定感を高める。3月は、行事（リズムジャンプセレモニー）を開催し、幼稚園修了を意識することで小学校につなげていく。このことを〈表I〉に示した。

〈表I〉 年間指導計画

月	リズムジャンプの保育内容
4月	できるようになったステップを楽しみ、新しいステップに挑戦する
5月	新しいステップに挑戦したり、4歳児に教えたりして楽しむ
6月	運動会向けのダンスに挑戦する（ダンス前半）
7月	運動会向けのダンスに挑戦する（ダンス後半） 新しいステップに挑戦する。
8月	夏季休業日
9月	運動会向けのダンスの完成をする。 運動会でダンスを披露する

10月	運動会のダンスをアレンジして、地域のふれあい祭りのダンスを創る 運動遊び（一人縄跳び、大縄跳び、マット、跳び箱など）に挑戦する。
11月	地域のふれあい祭りにダンスを披露する 運動遊び（一人縄跳び、大縄跳び、マット、跳び箱など）に挑戦する。
12月	運動遊び（一人縄跳び、大縄跳び、マット、跳び箱など）に挑戦する。 新しいステップに挑戦する。 発表会向けの新しいダンスに挑戦する。
1月	発表会向けの新しいダンスを完成させる。
2月	発表会向けの新しいダンスを披露する。 運動遊び（一人縄跳び、大縄跳び、マット、跳び箱など）に挑戦する。
3月	“リズムジャンプラストセレモニー” 運動遊び（一人縄跳び、大縄跳び、マット、跳び箱など）に挑戦する。



（リズムに合わせてリズムジャンプ）



（友達と一緒にリズムジャンプ）

城下幼稚園だより

平成27年 5月 13日 第2巻
実業市7歳下幼稚園

5月の行事

13日（木）入園の花印鑑式
14日（金）園歌練習
19日（木）おにぎり作り
20日（金）年中発表会
21日（土）家庭よう会練習
25日（月）うさぎせんくわ
26日（火）おにぎり作り
29日（金）運動会

リズムジャンプスタート ～3年目のチャレンジ～

実業市立城下幼稚園長 植山俊智子

今年の入園式は雨が多く降ってばかりで外へ出て遊ぶことができません。園舎の中で遊ぶ日が続きまして、そのおかげもあり、5名の年少児が園舎（城下幼稚園）に入学してきてくれました。リズムジャンプを見てあげたい」といったことがきっかけで、ゆうき室でリズムジャンプがスタートしました。

すると、はじめての入園児も走り回っていた入園児もキャッキャッとおもちゃを走っている姿を見ながら緊張していた入園児たちも、大きな声でリズムジャンプを見て、「やうかい！」（楽しすぎるー）と叫ぶ声も聞こえてきました。リズムジャンプははじめてでした。

入園したばかりの園児たちも、年長になった園児たちも、ユツコ先生と一緒に毎日練習を繰り返して、何がこんなにも楽しいのか、何が子どもたちを驚かすのか、先生たちも考えています。まだ思えば見つかっていません。とにかく全員でリズムジャンプのスタートです。

さて5月11日（月）、入園式からちょうど2週間、ゆうき室で練習を続けてきました。

（4歳児あかぐみ）

（津田先生とローランドン）

（5歳児きくみ）

（津田先生と準備体操）

（6歳児きくみ）

（友達と合わせて）

（7歳児きくみ）

（友達と合わせて）

（8歳児きくみ）

（友達と合わせて）

（9歳児きくみ）

（友達と合わせて）

今年も体力アップ、リズム感アップ、ジャンプ力アップ、リズムジャンプのスタートです。子どもたちの体力向上と意欲を育て、友達とから動物の育ちを見守り育てていきたいと思います。

園舎の様子

「いただきます」「ごちそうさま」の言葉には響いてくれるようです。「いただきます」は動物の命をいただくということです。「ごちそうさま」の「ごちそう」は食べるという意味で、食料が足りなくなり困らなければいけません。動物の命をいただくという言葉を、園舎の前後は、感謝の気持ちを込めて挨拶し、いただきます。

園舎の様子（5月より）

園舎の前後は、動物の命をいただくという言葉を、園舎の前後は、感謝の気持ちを込めて挨拶し、いただきます。

幼稚園では、季節の野菜を栽培し、好き嫌いのない食生活が送れるように、食育を進めています。お庭に季節の野菜がぐんぐん育ちました。よろしくお楽しみください。先日トマトは収穫しました。茄子やピーマンなども収穫予定です。

（城下幼稚園だより 5月号）

②心の内面の育ちの支援計画

支援内容の段階を〈表Ⅱ〉に示した。リズムジャンプを指導する際、子供に身につけさせたい力とそれに対応した支援内容の段階を表Ⅱに示した。ステップ①では基本的なリズムジャンプの技を実施する中で、「見る」、「真似る」力をつけることを重視している。ステップ②ではリズムに合わせて楽しみながら、「繰り返し挑戦する」ことを重視している。ステップ③では自分ができるということだけでなく他者に気づくように「友達と一緒に」を重視している。ステップ④は目的を共有したりイメージを持ったりする力が身につくように、

友達や小学生などを「見て真似る」、友達と「合わせる」ことを重視している。ステップ⑤では〈つながる・連帯・一体感〉が育つように「考える、挑戦する、友達と合わせる」ことを重視している。ステップ⑥ではペア活動やグループ活動を取り入れ、「工夫する、作る、相談する」ことを重視している。ステップ⑦では思いやりの心を育んでいくように「聞く、見る、待つ、応援する」ことに重視している。ステップ⑧では目標に向け「仲間と共に」活動できるようになることを重視している。幼児の心の内面の育ちを〈表Ⅱ〉に示した。

〈表Ⅱ〉心の内面の育ちの支援計画

ステップ ①	見る 真似る	昨年から取り組んでいる1～12のステップで遊びながら、面白さ、心地良さを味わっていく。
ステップ ②	繰り返し挑戦する	リズムに合わせて楽しみながらリズム感ジャンプ力、敏捷性に加え、体幹の安定力（腹筋・背筋）、を養っていく。また、保育者の指示を聞き遊びを繰り返すことで見る・聞く力につなげていく。
ステップ ③	友達と一緒に	ステップを取り入れたダンスを運動会に向けて取り組んでいく中で、達成感、満足感を味わっていく。
ステップ ④	見る 真似る 友達と合わせる	バージョンアップした1～12のステップで遊びながら、「同じ・違う」に気付き、楽しみながら新たな意欲（挑戦心）へとつなげていく。また、小学生のダンスに憧れを持ち、見て真似ながら遊びに取り入れていく。
ステップ ⑤	考える 挑戦する 友達と合わせる	地域行事（ふれあいまつり）に参加することを目標にし、パート別に練習して合わせたり、互いに見せ合ったりして良いところ、もっと良くなりそうなところを見つけ伝え合いながら個々の意欲につなげていく。
ステップ ⑥	工夫する 創る、相談する	自ら進んで取り組む意欲を育て、友達と一緒に活動することの面白さや共通の目当てに向かって取り組む中で味わえる満足感や達成感に気付けるよう、ペア活動やグループ活動を取り入れていく。
ステップ ⑦	聞く、見る、待つ、 応援する	友達の意見に耳を傾けたり、繰り返し挑戦している友達の頑張りを認められる場や時間を大切にし、思いやりの心を育んでいく。
ステップ ⑧	仲間と共に	目標（生活発表会）に向け協力できる方法話し合い、みんなで出し合った意見を持ち寄り、組み合わせ一つ一つのものを創り上げていく。



(どのジャンプにする?)



(2つのジャンプを組み合わせようね)

②運動能力

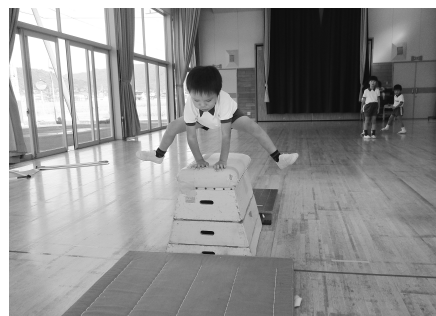
運動能力の変化を表Ⅲに示した。ボール投げは $6.6 \pm 1.6\text{m}$ から $7.8 \pm 0.9\text{m}$ へ向上しており有意傾向（ $p=0.08$ ）が見られた。立ち幅跳びは $95.4 \pm 8.6\text{cm}$ から $95.8 \pm 15.5\text{cm}$ へ変化していたが有意差はみられなかった。25m走は $6.9 \pm 0.4\text{秒}$ から $6.4 \pm 0.4\text{秒}$ へと向上しており有意差（ $p<0.0001$ ）が見られた。また14名の個人記録については表Ⅳで示した。

表Ⅲ 運動能力の変化

	6月	12月	有意差
ボール投げ（m）	6.6 ± 1.6	7.8 ± 0.9	$p=0.08$
立ち幅跳び（cm）	95.4 ± 8.6	95.8 ± 15.5	n.s
25m走（秒）	6.9 ± 0.4	6.4 ± 0.4	$p<0.0001$

〈表Ⅳ〉運動能力測定

番号	性別	ボール投げ（cm）		立ち幅跳び（cm）		25m走（秒）	
		6月	12月	6月	12月	6月	12月
1	女	590	580	93	100	7.34	7.26
2	女	630	480	90	95	7.07	7.01
3	男		800		134		5.59
4	女	490	470	92	108	7.15	6.26
5	男	660	1130	89	95	7.1	6.27
6	女	620	590	88	85	6.89	6.46
7	女	540	630	90	78	7.0	6.3
8	男	700	870	94	110	6.73	6.74
9	男	970	960	116	122	6.54	6.13
10	男	600	620	102	82	7.11	6.34
11	女	880	1030	90	71	6.75	6.15
12	男	620	640	91	82	7.38	6.36
13	男	540	650	105	101	7.1	6.52
14	男	950	1710	107	120	5.89	5.57
15	女	490	580	88	92	6.83	6.29



（跳び箱とべた！！いろんな運動につながっていく）

③保護者アンケート

保護者アンケートの結果を表Vに示した。A 4点、B 3点、C 2点、D 1点として平均値を計算し総合評価とした。「ようちえんに行くのを楽しみにしていますか?」「リズムジャンプは好きですか?」「体力がついてきたと感じていますか?」「年齢に応じた保育を取り入れていると思いますか?」「リズムジャンプを取り入れた保育を継続して欲しいですか?」の問い(8問中5問)に3.9の評価で、リズムジャンプを取り入れた保育が幼稚園教育として非常に高い肯定度と高い評価を持ち積極的に園生活を進める幼児の育成につながっていると捉えることができる。また「挨拶ができるようになりましたか?」「早寝早起き朝ごはんなどの生活リズムが良くなりましたか?」の問いには3.7の評価と3.6の評価で基本的生活習慣が身についてきていると答えているが、「片づけができるようになりましたか?」の問いにはまだ評価が低い。

〈表V〉アンケート(15名中14名 回収率93%)

		A	B	C	D	総合評価	
1	お子様は、幼稚園に行くのを楽しみにしていますか?	13	1			3.9	A
2	お子様は、挨拶ができるようになりましたか?	10	4			3.7	A
3	お子様は、片づけができるようになりましたか?	5	7	2		3.1	B
4	お子様は、早寝早起き朝ごはんなどの生活リズムが良くなりましたか?	8	6			3.6	A
5	お子様は、リズムジャンプが好きですか?	12	2			3.9	A
6	お子様は、リズムジャンプを通して、体力がついてきたと感じますか?	13	1			3.9	A
7	リズムジャンプの取り組みは、年齢に応じた保育内容を取り入れていると思いますか?	13	1			3.9	A
8	これからもリズムジャンプを取り入れた保育を継続して欲しいですか?	13	1			3.9	A

※A 4点、B 3点、C 2点、D 1点とし、平均を総合評価とする

※総合評価は、Aとても良い(3.2以上)、B良い(2.8以上)、Cあまり良くない(2.3以上)、D良くない(2.3以下)とする

回収したアンケート内容のうち運動面で肯定的な記述がみられたものは78.5%、生活面で肯定的な記述がみられたものは64.2%、その他の内容で肯定的な記述がみられたものは29%、否定的な記述がみられたものは0%であった。運動面・生活面・その他で記述されていた内容を表IVに示した。〈表VI〉はA)運動面、〈表VII B)は生活面、〈表VIII C)親としての満足面のアンケートを抜粋した。

〈表Ⅵ〉 A) 運動面アンケート抜粋

リズムジャンプを通して体力がついたことを感じている。いろんな運動に親しむようになったりチャレンジして達成できたりしていることにつながっていることも感じている。

- ・入園して一年半が経過して、楽しく継続して取り組んできた成果が、いろいろな場面で感じられるようになりました。身体（全身）が器用に動くようになり、鉄棒・跳び箱・縄跳び・アスレチック遊び・・・といろいろな遊びの楽しさに気づくことができたようです。
- ・あれだけの体力を使うのに苦に思っていないくて、ニコニコ笑顔で取り組んでいる姿が家でも見れます。暇さえあれば“ピョンピョン”跳び跳ねています。どんどん高く跳ぶことができています。全身運動で道具がいらず、体一つあれば運動、いいですね。今でも家族でピョンピョンしています。
- ・体力の向上、人と合わせられる力、できるという自信がついたと思います。去年はできなかった、やろうとしなかった縄跳び・鉄棒・跳び箱・コマ外し自転車が一日で、3回くらのミスで、ずっと乗れたので本人も親もびっくりしています。やはりバランス感覚もよくなったと思います。

〈表Ⅶ〉 B) 生活面アンケート抜粋

リズムジャンプを楽しむことで、明るく毎日を過ごす生活が送れている。自分の思いが言えるようになり、繰り返し頑張りチャレンジする姿が見られるようになり、体力的にも精神的にも成長が見えると捉えている。

- ・このリズムジャンプのおかげで、自分のやりたいことは「やりたい」と言えるようになったと思います。本人もやる気を出してやれば何事もできると気づいたと思います。
- ・入園してすぐのころは、体力も気力もついていけないこともありましたが、続けていくうちに、少しずつ体力もつき、上達する喜びを覚え、今ではダンスがとても好きになってきました。体力的にも精神的にもとても成長できたと思います。
- ・リズムジャンプをすることで体力がついて、運動することや体を使って遊ぶことがとても好きになりました。それに表現力や笑顔でいることが増えて、今まで以上に明るく日を過ごすようになったと思います。
- ・ただ跳ぶだけでなく音楽に合わせるということ、聴く力が身についています。聴いて合わせて跳んで動いてお友達に合わせる。この2年間で目に見えてよくわかります。年少児のビデオを見ると成長度がよくわかります。

〈表Ⅷ〉 C) 親としての満足面

運動に親しむ資質が育ったのが嬉しく、我が子が表情が輝いていたり頑張っていたりする姿が誇らしく、他者に褒められることでよりその感情が広がっている。

- ・成長する子どもの姿を見る親も、とても楽しめています。
- ・12月5日のダンスフェスの大舞台、大勢の観客にニコニコ笑顔で披露できることを見ていただいて、本当に楽しんでいる姿がよくわかりました。親としてあの瞬間、笑顔で見せてくれたダンスが嬉しかったです。子どもが輝いている姿が見れました。リズムジャンプは小学校でも中学校でも成長に合せて取り組んでほしいことの一つです。
- ・何より我が子が家でもリズムジャンプをして見せてくれるので親とし嬉しく、大好きで頑張っていることに指導してくださる先生方のご苦労が伝わります。先生、ありがとうございます。
- ・いろんな行事（運動会、独居老人との集いなど）に発表したので、散歩中に近所の方に「見たよー。とっても上手に踊っていたね、びっくりしたわ。」等と声をかけてもらい、大きな自信となっているようです。先生方、ありがとうございました。



5. 考察

約9か月にわたり、幼稚園でリズムジャンプを保育に取り入れ、保護者アンケートを実施し、リズムジャンプを取り入れた保育に対する保護者肯定度について調査した。

自由記述の中で最も記述が多かった内容は「運動面」についてであった。また、「お子様はリズムジャンプを通じて体力がついてきたと感じますか？」という問いに対しても3.9という高評価であった。実際運動能力も25m走で有意な向上がみられ、ボール投げでも有意傾向がみられた。一般的に運動指導は「できる」ことが重視され、トレーニングとして反復練習することが多いため、「できる子」が育つ反面、「運動嫌いな子」を作る危険性もある。今回、年間指導計画や心の内面の支援計画をみると、保育者はリズムジャンプができるようになることに主眼を置いていないことがわかる。できる技を楽しみ、それを下の学年に教える。さらに組み合わせさせてダンスをする。新しい技に挑戦する、といった展開の中で「見る・真似る」、「挑戦する」、「友達と合わせる」といった内面の育ちも重視しており、時間をかけて子どもの心身を「リズムジャンプ」を通じて育てようとしたことが伺える。その結果、「こども達はリズムジャンプが好きですか」という問いに対する回答は3.9と高い評価であり、「家でもリズムジャンプをみせてくれる」という記述からもわかるように、子どもたちは楽しみながら、リズムジャンプに取り組み、結果体力を向上させたことがわかる。子どもたちは楽しいと感じることで「もっとしたい」という感情が生まれてくる。「楽しい、もっとしたい」という思いは、音楽を聴いてそのリズムに合わせて体を動かしたり合わせたりすることから生まれてくる、音楽と運動のコラボレーションは非常に大きい原動力になっていると考える。

生活面についても6割以上の保護者が変化を記述していた。「リズムジャンプができるようになることで、その他の面にも自信がつき、笑顔が増えた、積極的になった」という記述が多く見られた。年間指導計画をみると、こども達は9月、11月、2月と3回にわたりリズムジャンプを組み合わせたダンスを披露しており、「ダンスで我が子が輝いている姿を見てうれしかった」、「近所の方から褒めてもらった」という保護者の記述も多く見られた。こども達はリズムジャンプが上達することでダンスも上手になり、保育者のみならず、保護者や親族、地域の方にも称賛され自信をつけたと考えられる。そのことが運動面だけでなく、その他の生活面

にも良い影響を与えたと推察される。

リズムジャンプを取り入れた保育に対して否定的な回答や記述は、全く見られなかった。今回の結果も津田の研究と同様、運動能力の向上が見られた。このことを受け、運動能力の向上を目指してリズムジャンプを保育に取り入れる園は多い。しかし、今回の研究でわかったことは、年間を通じて計画的に保育に取り入れることの重要性であろう。「リズムジャンプの取り組みが、年齢に応じた内容であったか？」という問いに対する回答も3.9と高評価であったことから、「できるようになる」ことを重視せず、こどもの内面の育ちと重ねながら保育に取り入れることで、運動面だけでなく子どもの自己肯定感も育てることができ、そのことが保護者の満足度につながることを考えることができる。

6. まとめ

リズムジャンプが「できる、できない」や運動能力の向上のみを注視するのではなく、教師は一人一人の内面をしっかりと理解し、教育内容を構成し、心身ともに健康な子どもを育てていくことが大切である。また幼児期の教育では、家庭と連携して一人一人の成長を支えることも重要であり、保護者との関係を構築する力も必要になってくる。

今回の「リズムジャンプを取り入れた保育に対する保護者の肯定度について」のアンケートから結果を以下のようにまとめることができた。

- 1、リズムジャンプを実施したことで、保護者の幼稚園教育に対する理解がより深まった。
- 2、アンケート調査の結果、リズムジャンプの保育は年齢に応じた保育内容であり今後も継続してほしいと願っていると保護者は答えている。
- 3、年間指導計画や心の内面の育ちの支援計画など、年間を通じて計画的に取り組むことが、心身ともに健康に育つ幼児の育成につながると考えられる。

謝辞

本研究をするにあたりご協力いただいた、宍粟市立城下幼稚園の先生方に、厚くお礼申し上げます。

参考文献

- 1) 文部科学省 平成24年3月幼児期運動指針
- 2) 文部科学省 平成24年3月幼児期運動指針ガイドブック
- 3) 文部科学省 平成24年3月幼児期運動指針普及用パンフレット
- 4) 津田幸保小学校児童に対するリズムジャンプの効果について(2013)、小学校におけるリズムトレーニングの実施が体力・運動能力及び保健室利用者数に与える影響(2017) 美作大学・美作大学短期大学部紀要